

知道 会報

CHIDO-KAIHO

82

編集 知道会広報委員会
〒310-0011水戸市三の丸3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 角田芳夫
発行日 平成25年5月1日
通巻 第82号
メール chidokai_mito@chidokai.jp

目次	特集	校長からのメッセージ	2
	一高だより	進学状況ほか	4
	PERSON	水橋の会呼びかけ人・堀義人氏	5
	同窓会・支部だより	27会60周年同窓会ほか	6

平成24年度 「会員の集い」

平成24年11月17日（土）、水戸京成ホテルに340名の知道会会員が集まりました。

懇親会に先立ち、「麴と酵母、そして人とのハーモニー 幻の酒米「渡船」復活と吟醸酒「渡舟」誕生秘話」を演題に恒例の講演会を行いました。講師は、昭和56年卒の山内孝明さん（府中菅株式会社 代表取締役社長）。一握りの籾から栽培し、酒造りが出来るまでになった経緯を、熱心に語ってくれました。

講演会が終わると、年1回の「会員の集い」懇親会の開始です。今回の担当学年は、昭和56年卒（講演会）、平成3年卒（懇親会）、平成13年卒（受付）の皆さんでした。全員参加の「一高トリビア」クイズでは、「渡舟」が5本賞品として提供されたこ



角田会長と学年幹事の皆さん

ともあり、難しいクイズへの挑戦に盛り上がっていました。担当学年から角田会長へ軍配の返還、そして次回の担当学年（昭57卒、平4卒、平14卒）に会長から軍配が授与されました。校歌斉唱（リーダーは昭56卒石井健司さん）、助川副会長（昭42卒）の一本締めで閉会となりました。

平成25年度 「会員の集い」

今年度の「会員の集い」は、11月9日（土）に水戸京成ホテルで開催します。担当学年は、昭和57年卒、平成4年卒、平成14年卒です。懇親会ではカラオケ大会（前々回）、クイズ（今回）等の楽しい催しを担当学年が企画します。今年の「会員の集い」にも、前回は上回る会員の皆さんの参加をお待ちしています。



山内孝明氏
（昭56卒 府中菅株式会社代表取締役社長）

会計報告 第61期 H23.10.1~H24.9.30 第62期 H24.10.1~H25.9.30

項目	第61期決算額	第62期予算額
収入の部		
年会費	9,624,000	10,000,000
卒業生入会金	1,600,000	1,600,000
寄附金収入	966,000	200,000
会員の集い会費	1,536,000	1,500,000
受取利息	10,718	20,000
特別積立金取崩	0	1,000,000
雑収入	1,291,660	50,000
前期繰越金	0	129,624
収入合計	15,028,378	14,499,264
支出の部		
運営費	(12,471,523)	(12,410,000)
会員の集い費	1,872,823	2,000,000
会議費	103,578	100,000
事務局運営費	2,300,623	2,200,000
通信費	3,026,265	3,050,000
消耗品費	46,339	110,000
旅費交通費	136,440	150,000
渉外費	34,169	100,000
支部強化費	477,425	500,000
振替手数料	469,864	500,000
印刷費	3,820,757	3,500,000
リース料	183,240	200,000
事業費	(544,739)	(670,000)
総務委員会費	58,214	600,000
財務委員会費	20,000	20,000
広報委員会費	162,215	180,000
名簿委員会費	10,000	10,000
親睦委員会費	100,790	200,000
女性会員活性化費	193,520	200,000
母校助成費	(882,852)	(990,000)
卒業記念品費	456,852	470,000
大会補助金	239,200	300,000
卒業生褒賞費	186,800	220,000
特別積立金繰入	1,000,000	0
雑費	0	0
予備費	0	429,264
次期繰越金	129,264	0
支出合計	15,028,378	14,499,264

年会費納入は利便性の高い口座振替で！

新任のごあいさつ



校長
小田部 幹夫

この度、早川源一校長の後任として着任いたしました小田部幹夫です。

私は、昭和48年3月卒業であり、当時の学年主任は国語の橋本道彦先生、3年次は3組で、担任は理科の片岡謙寿先生でした。たいへん充実した3年間を過ごさせていただきました。

これまでの教員生活の中では、主に県西地区の高校で勤務し、その後、県教育庁で、教育行政に14年間携わって参りました。県教育庁におきましても、水戸一高は常に注目される存在でした。私にとっても本校はいつも気になる学校でありました。

この4月の異動で母校で勤務することになり、今、身の引き締まる思いです。本城橋を渡ると、水戸城跡のこの三の丸の台地には、多くの先輩が学び、真理を愛する「学問第一」の校風や「自主自立」の気風、校是である「至誠一貫」「堅忍力行」の精神が今も息づいている気がしました。生徒たちは、みな目を輝かしており、未来を担う若者のために力を尽くしたいという気持ちになりました。

前任の早川源一校長は、4年間にわたり、本校の改革に尽力されました。私は微力ではありますが、その改革を更に前進させるとともに、135年の伝統を大切に、「至誠一貫」「堅忍力行」の校是のもとで、一所懸命、仕事をしたいと考えております。

今後、知道会の皆様には、多方面でお世話になることと思えます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

離任のごあいさつ



前校長
早川 源一

本校校長として4年間の職務を終え、この度離任いたしました。困難もいろいろありましたが、お陰をもちまして何とか職責を全うすることができ、現在充実感で一杯でございます。これまで、ご理解ご協力を頂きました角田会長を始めとする知道会会員の皆様に、心から御礼申し上げます。

4年間で最も困難を極めたのは、何と申しましても東日本大震災とその後の対応でした。当日の巨大な地震と余震の凄さの中、生徒たちの冷静沈着な行動と教職員の献身的な対応によりまして、翌日昼過ぎになりましたが、何とか全員無事帰宅させることができたときは、流石に疲労感で一杯でしたが、心から安堵したことを思い出します。

そして、その後交通遮断が続く中、いつからどのようにして授業が再開できるのか、校舎は使えるのか、安全は確保できるのか、入学式はどうするのかなどと、次から次に難題が浮かび上がってきて、本当に毎日が模索の日々でした。

そういう中、最も早く学校を心配して様々な対応をしてくださったのが知道会の皆様でした。思い出す度に熱いものがこみ上げて参ります。

そして、救われたのは生徒たちの姿勢でした。厳しい環境の中、それをやむを得ないものとしてきちんと受け止め、何とか前を向いて進もうとした姿勢です。この姿勢がある限り、本校生徒は大丈夫だと思いました。きっと、これから厳しい状況に遭遇しても、きちんと解決していけると確信しております。

改めまして、知道会の皆様のご理解とご協力を感謝申し上げます。

野球部の飛躍を 物心両面から支援

— 三の丸倶楽部 —

知道会会員であれば、だれもが母校の発展と会員及び後輩たちの活躍を期待し願っているはずです。活躍の場は学業はもちろん、部活動でも同じです。

特に、全校応援となる夏の大会では、文武両立（両道ではない）を期待する一般市民ファンも加わり、球場全体に応援の輪が広がります。しかしながら、硬式野球部（以下野球部）は昭和29年を最後に、約60年ものあいだ甲子園から遠ざかっています。

このような背景から、本倶楽部は知道会会員と現役野球部員父母会の有志により、物心両面から支援して甲子園出場実現させたいと、平成20年1月に設立されました。

入会資格は特にありません（現役部員父母の会会員、水府倶楽部会員は除く）。多くの皆様の入会をお待ちしております。ぜひ甲子園に校歌

会員の集い 幹事学年からのメッセージ

昭和57年卒

昭和57年3月1日卒業生 男313名・女87名計400名。東京サミット（6月、初めて日本で開催された先進国首脳会議）、第1回東京国際女子マラソン（11月、国際陸上競技連盟初公認の女子マラソン）、水戸一高が創立百一周年を迎え、新たな百年への第一歩を記した昭和54年の入学（概ね）です。

茨城放送の取材を受け大いに盛り上がったスポーツフェスティバル、残念ながら願いは叶いませんでしたが古豪復活と謳われグラウンドとスタンドが一体となって甲子園を目指した夏の野球県予選、前年の不祥事による汚名返上を誓って臨んだ学苑祭、矢祭山から一路学校に向かった歩く会、等々沢山



「旭輝く…」を響かせ、母校をさらに飛躍させる契機にしましょう。

○活動実績：会報発行(年2回)、応援帽子配布、物資支援(バッテリーマシン、部室改装、他)、試合応援(任意)

○ホームページ：

<http://www16.tok2.com/home/sannnomaru/>

○年会費：1口3,000円

(何口でも可)

○振込先：常陽銀行本店営業部
普通口座2945619

○問合せ先：事務局長 森 利克
電話：0294-53-1351

Eメール：ihm2158@ak.wakwak.com

硬式野球部後援会(三の丸倶楽部)
事務局長 森 利克(昭38卒)

毎年1月2日の 初射会 —弓道部OB会—

弓道部は、昭和35年に自的会という同好会で発足し今日に至っており、OB、OGの数は現在600名近くになっています。昭和43年に中野慶吉先生のご尽力により、最初の道場が完成、平成11年に現在の慶雲館道場が落成しました。

現役生は弓道八節の基本の射法の習得に励んでおります。また、これまでにインターハイ出場を始め、各種大会において立派な成績を残しております。さらに、大学に進学してからも全日本大学弓道大会等で活躍し、社会に出てからも弓道の道に精進し、教士や練士の称号を取得するなど、茨城県の弓道界において指導的立場を果たしている方がたくさんおります。

次に弓道部のOB

会「慶雲会」について紹介します。OB会は昭和55年に発足し、今年で34回を迎えました。毎年1月2日正午よりOB、OGの参加をいただき、初射会、総会を道場で、午後4時半からは水戸市の三の丸ホテルに会場を移して懇親会を開催しております。初射会は四ツ矢競射と点数的で実施。年に一度の弓を引くことを楽しみに参加する人を含め、五十数名が童心に返って和気藹々と弓を引いて過ごします。懇親会には年齢差50歳以上の人達が一堂に会し、弓道を通じて育んだ絆のもとで歓談し、最後に全員で校歌を斉唱して散会します。OB会を毎年1月2日に継続的に開催していることを誇りに思っております。

弓道部OB会会長

堀井孝義(昭38卒)



の思い出と、幾多のご指導を頂いた先生や先輩への感謝の気持ちを胸に、昭和57年の春学窓を離れ皆それぞれの人生を歩んでおります。

会員の集いの講師は、(株)文化放送編成局制作部の太田英明さん(32組)です。アナウンサーとしての苦労等メディア関係者ならではの講演にご期待下さい。

また、同日2011年2月以来2年ぶりとなる学年同窓会も開催予定です。

今年は、創立135周年という節目の年です。多数の皆様のご参加をお待ちしております。どうぞ宜しく願い致します。

(鈴木和彦35組、菊池功32組、君和田利智33組、深谷新太郎35組)

平成14年卒

今回、縁あって水戸一OBの方とお

会いし、初めて幹事学年であることを知りました。水戸で仕事をしていて、これも何かの縁であると思い、及ばずながら幹事の任を引き受けさせて頂きました。

昨年度にご担当された方々からの引き継ぎの席で、昨年の会員の集いでは300名を超える方々がお集まりになり、年を重ねる毎に盛大になっていることを知りました。これからもたくさんの方にご参加頂き、継続的な発展に繋がるように担当の任をしっかりと務めたいと思います。

また、今まで同級生との再開は何度もありましたが、会員の集いという諸先輩方や後輩の皆さんともお会いできるこの機会が、人の繋がりを広げる新たな良いきっかけになると思います。

さらに同級の方々でもクラスや部活動の枠を超えて、学年での会合はなかったかと思っております。卒業してから、た



学苑祭にて

くさんの出来事がありました。結婚して家庭を持たれた方も、仕事に打ち込んでいらっしゃる方も、様々な今までの思い出とこれからの見据える将来の夢を共有し、高校時代の思い出と共に楽しい再会となることを願っております。

同級生の皆様はじめ昭和57年卒、平成4年卒の先輩方、どうぞ宜しくお願い致します。

(33組 住谷直樹・細田明俊、36組 根本龍典)

EVENTS

平成24年

- 10月
 1日 親睦委員会
 6日 にさし会
 9日 昭27年卒60周年記念同窓会
 13日 水戸知道会総会
 正副幹事長・委員長会議
 13日、14日
 水戸一高歩く会(筑波コース)
 ミニ歩く会(日立コース)
 14日 総務委員会第5回実行委員会
 24日 第1回知道会幹事会
 27日
 11月
 10日 西日本水中一高会
 17日 知道会会員の集い・代議員会
 昭56、平3、平13年卒同窓会
 18日 瓜連知道会
 22日 税理士知道会
 24日 医水会
 24日 桜川市知道会
 12月
 17日 広報委員会
 24日 みつば知道会忘年会

平成25年

- 1月
 2日 昭39、昭63年卒同窓会
 3日 昭43年卒同窓会
 19日 昭31年卒同窓会
 2月
 8日 幹事会・合同委員会
 11日 みつば知道会新年会
 23日 東京知道会同窓の集い
 3月
 1日 昭38年卒50周年記念同窓会
 1日 水戸一高卒業式
 4日 昭34年卒同窓会
 9日 総務委員会集い反省会・引継会
 五軒知道会
 31日 茨城町知道会
 4月
 6日 桜山知道会
 7日 昭48年卒40周年記念同窓会
 9日 水戸一高入学式
 21日 みつば知道会総会

平成24年度卒業式

平成25年3月1日に卒業式が挙行された。昨年は大震災による体育館補修工事のため、水戸三高の体育館を借りての卒業式だったが、今年度は2年ぶりに本校体育館で実施した。

校長式辞、卒業生の呼名と卒業証書授与、橘教諭と井坂教諭(学年主任)による「教員はなむけの言葉」、長瀬さんと蘭部君による「卒業生の言葉」、そして最後は「仰げば尊し」斉唱という盛りだくさんの卒業式を終え、322名が本校を巣立っていった。

平成25年度定期人事異動

次の方々が異動された。

1 退職(教科および在職年数)

早川源一	校長	4年
平山弘文	事務室長	2年
吉田浩一	社会	12年
増澤恵美	国語	1年
多田野清人	社会	1年
原納優	理科	2年
川碕彩未	英語	1年
酒井英人	理科	1年
石井久美子	事務	5年
海老沢政義	事務	1年

2 転出

大島勇一	国語	9年
笠間高へ		
上田浩史	社会	10年
那珂湊高へ		
大信隆	社会	3年
笠間高へ		
丹和夫	理科	9年
藤代高へ		
関根悟	保体	8年
中央高へ		



本校体育館で卒業式

鈴木秀久	英語	10年
高萩高へ		
正木昇	英語	8年
高校教育課へ		
小林大亮	英語	5年
友部高へ		
鯉淵健次	事務	3年
那珂湊高へ		

3 転入(学校名は前任校)

小田部幹夫	校長	教育次長
出頭裕実	事務室長	麻生高
関口周美	国語	銚田二高
黒羽信夫	社会	日立一高
野上真俊	社会	日立北高
結城治夫	理科	石岡二高
山田直也	保体	小川高
矢野賢	英語	日立二高
大久保忍	英語	勝田高
石井典子	英語	常陸大宮高
佐々木理央	事務	水戸農高
山縣創明	社会	
大島知子	英語	
鈴木雅晴	社会	
上野泰歳	事務	

入試結果と進路状況

平成25年度の大学入試は、322名の卒業生のうち、国公立大に95名、私立大に延べ248名が合格した。国公立大医学部医学科は、現役生が6名、既卒生は11名が合格した。また、

知道会会員の皆様へ

年会費口座振替納入のお願い

知道会会員の皆様には元気にお過ごしのことと思います。

知道会は、母校の同窓会組織として、昭和26年(1951年)に発足しました。

現在会員は2万名を超え、国内・国外の幅広い分野で活躍しており、この知道会のネットワークが母校にとっての大きな財産になっております。

母校において共通の体験をした同窓生同士が親睦を深め、ともに成長し、

「至誠一貫・堅忍力行」の伝統を受け継ぐ後輩たちを応援していくことが知道会の目的です。

特に、母校の支援については、これからますます拡充をしていかなければなりません。

そして、継続的に母校の支援をしていくのに欠かせないのが、皆様にご負担いただく年会費です。

世界中どこにいても、私たちは知道会会員として繋がっています。

「年間2,000円でできる母校支援」を口座振替で。

ぜひともご協力をお願いします。

知道会は母校のために

これまで行ってきた事業の一部です。知道会館建設(S53) 海外派遣・招聘(S63~H9) 卒業生褒賞(H10~) 新江山閣建設(H12) モニュメント制作・設置(H20) 東日本大震災復旧・復興義援金受け入れ(H23)

※納入手続きその他のお問い合わせは以下あてをお願いします。

〒310-0011
 水戸市三の丸3-10-1
 茨城県立水戸第一高校内知道会事務局
 電話 029-226-3960(月、水、金)
 FAX 029-226-4157
 メール chidokai_mito@chidokai.jp

水橋の会・呼びかけ人

堀 義人氏 (昭56卒)

グロービス経営大学院学長



首都圏で活躍する水戸一高の卒業生21人が11月28日に都内で勉強会「水橋の会」を立ち上げた。「水戸から出た人材を水戸のために」との呼びかけに企業関係者、官僚、メディア関係者らが応じたものだ。呼びかけ人のグロービス経営大学院学長・堀義人氏(昭56卒)に寄稿いただいた。

私立大を受験する現役生が減り、合格者数は昨年よりも減少している。

主な大学の合格者数を以下に記す。()内は現役合格者数。

○国立大学

北海道大	5(1)
東北大	22(14)
茨城大	18(11)
筑波大	30(20)
千葉大	10(4)
お茶の水女子大	3(2)
東京大	6(4)
東京外語大	6(5)
東京工業大	5(0)
一橋大	3(2)
京都大	6(2)
大阪大	3(2)

○私立大学

青山学院大	22(7)
慶應義塾大	24(8)
上智大	14(8)
中央大	47(21)
東京理科大	58(12)
法政大	35(18)
明治大	97(34)
立教大	41(18)
早稲田大	71(36)

(平成25年4月1日現在)

平成25年度入学状況

平成25年度の入学者は男子202名、女子122名の324名で、過去2年と比べると男子がやや多い学年構成となりました。

出身地で見ると、すべての入学者が県内ですが、牛久など遠方からの入学者もおり、バラエティ豊かな人材構成となっております。

4月9日の入学式では、呼名に応じる新入生の張りつめた声が力強く響き、これからの高校生活がとても楽しみに感じられました。

これから、いよいよ真の水戸一高生になるためのチャレンジがはじまります。それぞれが限界という壁を越えるための3年間です。どうか皆様、新しい後輩達を温かく見守っていただけますようお願いいたします。

(1学年主任 小林教諭)

昨年、経済、メディア、文化等の各分野で活躍する水戸一高卒の人材に声をかけ、「水橋の会」を立ち上げた。コンセプトは、簡単だ。中国から飛び出した華僑が、中国の繁栄に寄与したように、水戸を飛び出した人材を、水戸の繁栄に寄与させよう、という構想だ。僕は、それを「水橋」(華僑をもじった命名)と呼び、水戸の発展に活かそうと考えた次第だ。「酔狂」と響きが一緒なので、面白い。

初回はゲストにポイント福田三千男会長(昭40卒)を迎え、凸版印刷大久保伸一常務(昭45卒)から、先日マザーズ上場を果たしたエニグモ須田将啓代表取締役(平5卒)まで水戸一高らしい多彩なメンバーが集まった。皆「水戸」を回想し、現状を聞き、自分に何ができるかを考えた。参加した誰もが心を熱くして、また、日常の生活、ビジネスの現場に戻った。この繰り返により、それぞれの力を水戸につなぎ、貢献できるものと信じている。

僕は、混迷する現代を動かし変える人材を「創造と変革の志士」と呼んでいる。グロービス経営大学院が輩出すべき人材像として、教育理念の根幹をなすものだ。幕末に国を思い、志を持って行動した水戸の志士たちに倣って命名した。

そのグロービス経営大学院を僕は、たった一人で1992年に設立した。そのグロービスが今や、日本最大の経営大学院に成長した。日経新聞のランキングでは、早稲田、慶応、一橋大学よりも上位に位置するに至った。でも僕は、日本No.1では、物足りないと思っている。アジアNo.1のビジネススクールを創らないと意味が無いのだ。

その経営大学院に加え、ベンチャー・

キャピタルを通して日本の未来を担う人づくり、新たな産業づくりに挑んでいる。さらには政財界はじめ各界のキーマンたちが集う日本版ダボス会議「G1サミット」。水戸を含む被災地と世界との架け橋となる、「一般財団法人KIBOW」などを通して、日本の再創造に取り組んでいる。この思いの源泉は、自分自身が「水戸っぽ」であるという強烈な意識に根付いている。

僕は最近、ダボス会議など世界の舞台に出る機会が増えた。世界に行けば行くほど、自分のアイデンティティの重要性を認識する。「国際化された人間」は世界に出ていけば、当たり前存在でしかない。世界のどこにいても、一番重要なことは、自分が「ユニークな存在」であるということだ。

「自分とは何者であるか」を考え続け、自分の使命を認識した「ユニークさ」こそが、世界で戦っていける強力な武器だと、僕は思っている。その「固有のユニークさ」は自分が生まれてきた場所・土地柄、吸ってきた空気、触れてきた人間によって育まれる。僕にとっては、その土地こそが「水戸」なのだ。

この「水橋の会」を通して、ネットワークを組み、僕らのユニークさの原点である「水戸」への恩返しを続けていく覚悟である。



水橋の会

27会卒業60周年記念 水戸・東京合同同窓会

我々が「水戸中学」に入学したのは、戦後間もない昭和21年4月。授業は校舎ならぬ旧兵舎で行われた。翌22年4月には、6・3・3制の発足により水戸一高併設中学校へ移行。高1になって、やっと念願の本城跡へ通学できた。まさしく「中高一貫教育」の魁を経験したためか、教師と生徒や学友間の絆は緊密さを増し、昭和27年3月に卒業したのである。

それから60年の歳月が過ぎて、この節目の年に、水戸・東京各27会(参加者65名)が一堂に会して、10月9日に水戸京成ホテルにおいて同窓会を開催した。

今回の特徴の1つ目は、当日午前中に希望者による「母校訪問」を行ったことである。木戸副校長から母校の現況説明を受け、校内を散策して、その変容振りに驚嘆した。

2つ目は、恩師箕輪晋先生(89歳)のご臨席を戴いたことである。先生は昭和20年11月に水戸中学に着任し、化学を担任されて在職20年余に及び、当時の思い出深いお話を敬聴することができた。

3つ目は、会員の拠出による「震災義援金」をご臨席を戴いた角田知道会会長に贈呈し、一刻も早い復興を願ったところである。

我々の大方は明年に「八十路」を迎え、残念ながら鬼籍に入る同僚も増えている現状を踏まえて「卒業70周年にまた会おう」を合言葉に、お互い自重自愛、再会を誓い合って散会した次第である。
(幹事 飯村陽一記)



38会卒業50周年記念大同窓会

平成25年3月1日、ホテルレイクビュー水戸において、記念同窓会を開催しました。

会長の開会あいさつから一部をご紹介します。

『本日、平成25年、昭和なら88年、3月1日。県内の各高等学校では、卒業式が挙行されたとのことです。私たちは、卒業して50年が経ちました。

恩師の、毛利先生、石橋先生、根本先生には、今回もご出席をいただきまして、感謝申し上げます。

また、ご来賓の知道会の角田会長、古平事務局長、橋本茨城県知事、早川校長におかれましては、大変お忙しい中をご臨席賜りまして誠に有り難うございます。

私たち昭和38年卒業生は、総数426名、内44名の友がすでに逝去され、本日の出席者は96名です。9人の恩師の先生方は、5人がお亡くなりになっております。

人の世の常とは言え、さみしいかぎりですが、我々は、「至誠一貫・堅忍力行」の精神のもと、「立てよ水城(水高)健男子、立つべき時は今なるぞ」の気持ちで、前へ進んでいきたいと思っております。』

2時間半はたちまち過ぎました。恩師の先生方、ご来賓の皆様、に、改めまして深く感謝申し上げます。

今回は、5年後と言わずにという意見が多くありました。

なお、知道会に、会費から30万円を「在校生士気高揚資金」として寄附させていただきました。

(36組 稲葉節生)

昭和43年卒同窓会

「昭和43年卒同窓会2013」は1月3日、水戸の三の丸ホテルに恩師の高橋徳正、鶴巻勝夫両先生のご臨席を頂き、同窓生74人が出席して盛大に開かれました。「43会」は同窓生の還暦を機にそれまでの5年に1回から2年に1回の開催

となっており、今回は2011年以来の集まり。初めての試みとして、31組から39組までの各クラス代表1人が退職後に取り組んでいることなどを披露し、パーティーを盛り上げました。

まず、亡くなった同窓生30人、恩師5人に黙祷。代表幹事の後藤克己君(39組)があいさつし、在校生士気高揚資金として10万円を知道会の古平事務局長に手渡しました。そして、高橋、鶴巻両先生からスピーチを頂きました。

高橋先生の音頭で乾杯。同窓生たちはクラスごとに丸テーブルを囲んで酒を酌み交わし、旧交を温めて、2時間半はあっという間に過ぎました。最後に元応援団員3人のエールに合わせて校歌斉唱。2年後の再会を楽しみにしながら会場を後にしました。

(幹事 佐藤 猛)



昭和48年卒卒業40年同窓会

私たちが幹事を努めた東京知道会の散会の折、「次は卒業40年を記念して水戸で再会しよう」という声があがったが、あれから10年、私たちの卒業40年同窓会は、2013年4月7日13時にホテルレイクビュー水戸で開催された。

参加者数は100名、町中で会っても互いに認識できないのではないかとと思われる友人たちも少なくないように見えたが、やがて、「おまえも変わらないなあ!」という会話があちらこちらから一斉に聞こえてきて、大きな笑い声が響き渡る同窓会場へと一変した。そして、3時間を予定していた一次会も瞬く間に終了時刻となったが、二次会の出席者は、幹事の想定を

ご支援に感謝

2千余名の会員から水戸一高震災義援金

平成24年10月1日以降、平成25年3月31日の間に、「昭和27年卒60周年記念同窓会」様から多額の義援金を頂きました。ご厚情に深く感謝申し上げます。現時点で2,008名の方々から、総額2,230万円を超える義援金が寄せられ、母校の施設・設備・経費補助など復旧・復興のために1,480万円余を使わせて頂きました。今後の使途につきましては、現在、学校側と鋭意検討しており、次回（知道会報83号）にて詳細ご報告いたします。会員各位のご支援・ご協力に重ねて感謝申し上げます。（知道会事務局）

大きく超えて50人を数えた。

在学時の生徒数が一学年あたり450人と大所帯だったためか、卒業後に改めて知り合った友人も多く、水戸一高の同窓会の魅力は、年齢を重ねるにつれて増してゆくように感じている。今回は還暦を記念して2年後に集まろうということなどで散会した。

出席者名札を作成してくれた栗原英則くん、出席者全員の在学時個別名簿（私の場合は「11組、21組、31組」の名簿）を作成してくれた篠原勉くん、司会を担当してくれた坂本和重くんには、この場を借りてとくに謝意を表したい。

（31組 三上晴久）

昭和56年卒学年同窓会

“人生半世紀超え”記念の学年同窓会は「知道会会員の集い」と同じ11月17日に120名の出席を得て水戸駅ビルで開催されました。恩師8名と、知道会から角田会長と古平事務局長に出席いただきました。

幹事代表梶山君の挨拶後に、恩師代表として宮田先生のご挨拶。続いて秋山先生に、本年亡くなられた坏先生のお話を、小田先生に今回ご欠席の片岡先生の近況を伺い、坏先生と故人の同窓生に対して黙祷。その後、「集い」での講演会が大ウケだった山内君の音頭で乾杯しました。

歓談中には、恩師の皆様より挨拶を頂き、記念品として山内君作「渡舟」を贈呈。馬頭琴奏者の竹内（旧姓旧橋）さんのモンゴルの祝いの歌と演奏も披露されました。

恩師を囲んでの各組の記念撮影後に、元応援団長の石井君の指揮



で校歌斉唱。中締めを幹事北條君が行い、稲葉先生の飛び入りエールで閉会となりました。

幹事として工夫した点を少し。「経年変化クイズ」を取り入れた案内状を制作。おみやげが大事だと考え、お猪口と缶バッジを用意しました。

大成功だったと思います。お世話になった皆様に感謝します。

西日本水中一高会学生の集い

昨年10月27日、2回目となる西日本水中一高会学生の集いを大阪で行いました。大阪大学教授である朝日先生にもお越しいただき、井内さん、尾城さんと京阪神の大学に通う学生8名とで開催されました。

このときは平成22年卒業の同級生ばかりが集まり、それぞれ近況報告などで盛り上がりました。前回は平成20年卒業の先輩も参加してくださり、他に西日本水中一高会には平成24年卒業のメンバーも数名います。水戸一高から関西圏の大学へ進学する人は大変少ないですが、このような会を持つことで横のつながりを深めていこうと考えています。友人や諸先輩方は茨城から遠い関西の地において大変心強い存在です。

西日本水中一高会は近年学生会員が増えてきています。人数が少ないため、大変アットホームな雰



囲気で歓迎会や送別会など定期的に懇親会が開かれており、私たち学生にとっては大変貴重な場であると思います。ぜひこの記事を読んでくださった方、学生、社会人問わず会員募集中ですので、次回、おそらく6月に京都で開かれる歓迎会への参加をお待ちしております。（高塩早紀）

友部知道会 愛宕山歴史探訪歩く会

平成19年の大合併により、1市2町で新笠間市が発足して5年が経ちました。新笠間市には、笠間知道会、岩間知道会、そして私共の友部知道会があります。これら3支部は、互いに総会、講演会等の行事において交流があり、大変良好な関係です。

友部知道会では、昨年（平成23年）初めて旧笠間市の歴史探訪の散策（ミニ歩く会）を企画しました。稲荷神社、5つの寺等を巡りながら歴史を学習する会です。

本年（平成24年）は、3支部合同の旧岩間町の歴史探訪の散策を11月11日に実施しました。コースは、紅葉の盛りの愛宕山周辺約10kmの行程。陣屋跡、本陣跡、愛宕神社、龍泉院等が主な見学地です。笠間市の歴史文化財愛護会の南秀利氏（昭31卒）のお話。地元岩間知道会の中村彦蔵会長（昭37卒）には、旧岩間町についての裁切丁寧な説明を頂き、全員元気で完歩しました。

自信を付けた面々から、早くも次年度も実施してほしいとの要望もありました。3支部の触れ合いが真の町づくりに役立つことを期待いたします。（鶴田信晃）

親睦委員会

第34回知道会ゴルフ大会

第34回知道会ゴルフ大会を6月8日(土)に浅見カントリー倶楽部で開催します。今年は土曜日の開催でまた比較的安価での料金設定をしておりますので、大先輩の皆様方ももちろんですが、特に若年層の皆様の参加を期待しております。直近の参加者には案内状を送付しておりますが、知道会ホームページにも間もなく詳細を掲載する予定です。今回初めて参加したい、または久しぶりに参加してみようかという方も大歓迎です是非知道会事務局まで参加の意思をご一報のうえ先輩、同期、後輩との親睦を深めていただけたら幸いです。

第10回知道会OBミニ歩く会

第10回知道会OBミニ歩く会を9月28日(土)に水戸市内で開催致します。今回は、10年目という記念の年でもありますので、水戸一高を起点にしたコースを予定しております。現在の水戸一高の様子を見ながら昔話に花を咲かせ、当時の面影や思い出を懐かしみ、水戸の街を歩くことができたらと思います。参加費は1,000円となります。卒業してから一度も校舎を訪れておられない先輩方は、これを機会に是非ともご参加いただき、当時を思い起こされてはいかがでしょうか?もちろんご家族連れも大歓迎です。たくさんのご参加をお待ちしております。

知道会会則改正

昨年11月17日に開催された代議員会において総務委員会から提案され、承認いただいている知道会会則改正については、以下のとおりです。お知らせいたします。

なお、会則全文は知道会ホームページに掲載されておりますので、組織図とあわせご参照ください。

(HPアドレス <http://www.chidokai.jp/shoukai/index.html>)

会則

第8条5項 「代議員は、選出母胎の会員の動向を把握し、本会の運営に関与する。」を選出母胎の指し示すところを明確にするため、文言を下記に訂正する。
第8条5項 代議員は第17条1項に定める団体の会員の動向を把握し、本会の運営に関与する。

(参考)

第17条1項 本会には、各卒業年次、地域、職域ごとに、団体を設けることができる。

第62期 知道会幹事会及び委員会名簿

顧問	後藤卓三(昭19)、西野虎之介(昭23)、☆小田部幹夫(昭48)
会長	角田芳夫(昭28)
副会長	☆加藤武雄(昭33)、永井靖彦(昭35)、川又諭(昭38)、助川裕(昭42)
幹事長	栗原英則(昭48)
副幹事長	深谷新太郎(昭57)、河野秀幸(昭63)
総務委員会	*◎粉川勝(昭42)、○大内常男(昭43)、*○木戸明良(昭47)、三上靖彦(昭52)、横山伸一(昭53)、後藤直樹(昭54)、後藤岳志(昭54)、堀江英夫(昭55)、☆飯塚博之(昭56)、黒木雅宏(昭58)、大谷基道(平1)、竹村広治(平3)、☆倉田章吾(平3)、川崎篤之(平8)、星野博史(平11)
財務委員会	*◎板橋義則(昭40)、*◎西山良昭(昭41)、大金誠(昭42)、後藤克己(昭43)、皆川真規夫(昭45)、勝山文久(昭45)、*○根本祐一(昭46)、関田國作(昭53)、伊藤道子(昭53)、佐藤昌樹(昭55)、太田聖史(昭58)、仲田留美(昭63)
名簿委員会	*◎奥野茂雄(昭44)、*○水口二良(昭47)、野村貴広(平7)
広報委員会	*○宮内寿子(昭47)、*◎川又敏郎(昭49)、*○和田宏(昭51)、内藤学(昭53)、飯村雅明(昭55)、橘川栄作(昭56)、☆平井夏樹(昭56)、☆森田真理子(昭56)、平山桂己(昭59)、鈴木圭輔(平5)、海老澤佳之(平9)
親睦委員会	*◎富永潤一(昭46)、佐藤衛(昭47)、*○小林圭子(昭48)、小野瀬慈(昭52)、*○君和田利智(昭57)、星野幸子(昭57)、黒澤広忠(昭58)、高林憲一(昭58)、小澤一利(昭58)、☆高橋淳子(昭58)、原口哲也(昭60)、☆磯崎雄司(平1)、海老根武(平2)、☆濱野正之(平4)、鹿志村茂(平5)、加藤高弘(平6)
幹事	*稲葉節生(昭38)、☆*横山仁一(昭47)、☆*岡部輝彦(昭47)、☆今関裕夫(昭50)、*黒澤吉之(昭52)、*川原井司(昭60)
監事	坂本和重(昭48)、篠原勉(昭48)
事務局	古平恒夫(昭37)、渡辺和子(昭47)

() 卒業年次、*幹事、◎委員長、○副委員長、☆新任

物故者 (H24.9.1 ~ H25.3.31 迄にご連絡を頂いた方を掲載しました。)

旧職員	坏 満夫	昭15	渡邊 善郎	昭22	神長(石)昭男	昭31	大和田英美
旧職員	石塚 常雄	昭16	中島(堤)蔵	昭23	大野 久雄	昭33	井上 四郎
旧職員	杉崎 仁	昭16	照沼 達蔵	昭25	小園江義家	昭33	桧山 忠男
旧職員	竹江 哲郎	昭16	横須賀煌介	昭25	櫻村源太郎	昭34	杉崎 仁
大13	小沢 俊夫	昭17	亀山 実	昭25	綿引 一洋	昭35	宮本 正男
昭8	樋口(布施)重雄	昭19	大森 忠厚	昭26	辻 了達	昭36	石橋(大貫)正倫子
昭10	加藤(小林)謙二	昭19	小浜 次男	昭26	海野 幹雄	昭37	飯野 弘四郎
昭12	飯塚平八郎	昭19	小林 時夫	昭26	大嶋 琢児	昭38	岡野 三郎
昭12	河崎藤太郎	昭19	峯島 榮一	昭26	鈴木 洋一	昭38	島村信一郎
昭12	富田 祐行	昭19	森田 正	昭26	早坂 哲郎	昭38	鶴田 勝利
昭13	鈴木 一慧	昭20	早乙女二郎	昭27	沢畠 正雄	昭38	大槻 哲郎
昭13	関 行和	昭20	西山 久仁	昭27	村上 篤	昭38	坂本 尚憲
昭13	豊崎 直	昭20	矢萩 克郎	昭28	坏 満夫	昭38	河本 進
昭13	箕輪 敏	昭20	大谷 進	昭28	角田 健一	昭41	武貞 憲一
昭14	久下沼 実	昭20	鈴木 博	昭28	石川 千里	昭43	飛田 守一
昭15	石川 信常	昭20	根本 弘之	昭28	岡部 幸雄	昭43	小池 幸二
昭15	寺沼 達夫	昭20	後藤 公美	昭29	館 英雄	昭50	原田 崇
昭15	前田 秀陽	昭20	本田 光	昭31	川又 敏裕	昭51	井上(渡邊)匡子
昭15	横木 弘行	昭22	坏 邦彦	昭31	横田 逸男		

コンサートの
ご案内

小川 瞳 ピアノリサイタル

2013年9月14日(土) 東京文化会館 14時開演

主催:文化庁/公益社団法人 日本演奏家連盟 後援:知道会

本校出身のピアニスト・小川瞳さん(H17卒)のリサイタルが9月14日に東京で行われる。彼女は会報79号(H23年9月発行)でもご紹介した新進気鋭の演奏家。活躍が期待される。